

平成 20 年 5 月 16 日

各 位

会 社 名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 福井 政文
(コード 2388 大証ヘラクレスG)
問合せ先 代表取締役専務 田代 宗雄
(TEL. 03-5217-0723)

特別損失の発生と平成 20 年 3 月中間期業績の前年同期実績からの差異に関するお知らせ

当社は、下記のとおり特別損失を計上する見込みとともに、平成 20 年 3 月中間期（平成 19 年 10 月 1 日 ～ 平成 20 年 3 月 31 日）の業績が、前年同期の実績値に比較して重要な差異を生じることとなりましたので、お知らせいたします。

記

1 特別損失の発生及びその内容

(1) 連結（中間期）

当中間連結会計期間において、当社グループは事業セグメント毎かつ会社毎により資産のグルーピングを行い、減損損失の認識の判定をしております。その結果、固定資産について減損損失を 10 百万円計上いたします。又、子会社の株式会社エンジンにおいて店舗の移転を行った結果、事業所移転費用が 6 百万円計上いたします。これらの損失の計上により、特別損失が 22 百万円発生いたします。

(2) 個別（中間期）

当社の子会社のうち、債務超過に陥った会社について各社の回収可能性を精査した結果、貸倒引当金繰入を 58 百万円計上いたします。又、有価証券評価損を 1 百万円計上することと合わせて、特別損失が 60 百万円発生いたします。

2 平成 20 年 3 月中間期業績（連結）と前年同期実績（連結）との差異

(単位：百万円，%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前年同期実績 (A) (平成 19 年 3 月中間期業績)	1,299	4	3	24	円 銭 597.08
今回発表業績 (B) (平成 20 年 3 月中間期業績)	977	△ 1	18	12	175.78
増 減 額 (B-A)	△ 322	△ 6	15	△ 12	△ 421.3
増 減 率 (%)	△ 24.8	—	410.3	△ 50.3	△ 70.6

3 差異の理由（連結）

売上高の減少要因につきましては、まず物販事業においては前連結会計年度まで大量の商品仕入

により売上拡大路線をとった結果、前連結会計年度末に不良資産の評価減による多額の損失を計上したことの反省を元に、仕入及び在庫を適正規模にまで圧縮し、採算性の向上を図ったことに起因しております。又、コンテンツ事業においてはカードゲームの収入が予想を上回ったものの、その他大幅に売上高を向上させるヒット商品に繋がるコンテンツが乏しかったことや、アニメコンテンツにおいては営業活動に注力しながらも採算性を重視した受注に重点をおいた結果、上半期において案件の受注に成功したものの、その売上高が下半期以降に計上される見込みとなったことにより、これらの要因により、売上高は前年同期実績より3億22百万円減少し、9億77百万円（対前年同期実績24.8%減少）となっております。

又、営業利益の減少要因につきましては、将来収益を生む見込みのない商品及びコンテンツ資産について評価減を実施したこと、回収が困難と認められる債権について貸倒引当金の設定を厳しくしたこと等により、前年同期実績より6百万円減少し、1百万円の損失となっております。

一方、経常利益につきましては、保険解約返戻金による収入や、子会社の株式会社エンジンが新たに開始した投資事業の株式オプション売却益等が貢献し、前年同期実績より15百万円増加し、18百万円（対前年同期実績410.3%増加）となりました。

中間純利益につきましては、固定資産の減損処理等により、前年同期実績より12百万円減少し、12百万円（対前年同期実績50.8%減少）となりました。

4 平成20年3月中間期業績（個別）と前年同期実績（個別）との差異

（単位：百万円，％）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前年同期実績（A） （平成19年3月中間期業績）	273	35	59	3	円 銭 97.50
今回発表業績（B） （平成20年3月中間期業績）	406	53	60	11	174.66
増 減 額（B－A）	132	18	1	7	77.16
増 減 率（％）	48.5	53.1	2.3	199.7	79.1

5 差異の理由（個別）

売上高の増加要因につきましては、主に前中間会計期間に連結子会社であった株式会社ブレインナビを吸収合併したことにより、売上高は前年同期実績より1億32百万円増加し、4億6百万円（対前年同期実績48.5%増加）となっております。

又、営業利益の増加要因につきましては、販売費及び一般管理費の削減が奏功し、前年同期実績より18百万円増加し、53百万円となっております。

一方、経常利益につきましては、前中間会計期間には受取配当金による収益が大きかったものの、当中間会計期間では営業外収益及び営業外費用ともに発生が少なかったため、前年同期実績より1百万円増加し、60百万円（対前年同期実績2.3%増加）となりました。

中間純利益につきましては、前中間会計期間よりも特別損失の発生が少なかったため、前年同期実績より7百万円増加し、11百万円（対前年同期実績199.7%増加）となりました。

6 通期の見通し

通期の業績見通しにつきましては、平成19年11月16日に発表したとおり、売上高は28億円、営業利益1億39百万円、経常利益1億75百万円、当期純利益1億50百万円を予定しております。

現時点では通期の業績予想に対して進捗率が遅れているものの、アニメコンテンツにおいて大型案件の受注に成功し順調に進捗していること、カードゲームの売上高による増収・増益を見込んでいること、上半期に出資したコンテンツの回収を下半期に見込んでいること、新たに出版事業を予定しておりその収益を見込んでいること、等から通期の業績予想は概ね達成できるものと考えております。

以 上